はしがき

変化の激しい社会の中で，教育への関心や期待はますます大きくなってきている。このことは，裏を返せば教育に対する不安と不満の現れとも受け取れる。この期待や不安にどのように応えればよいのだろうか，一校を預かる校長の責任は重いといえよう。

学校経営は自校の教育目標を達成するために行う学習その他の教育活動を効率的に，かつ能率的に展開するための諸条件を整えることである。この諸条件のどれをとってみても，各学校がよく対処しうるものではない。たとえば，人的要素の一つをとってみても，教員の年齢構成，性別構成，免許教科構成等において自校の現状が理想的な構成になっていることはまずない。同じことが物的条件や財的条件についてもいえる。これが現場の実状である。これらの外的条件を少しでもよりよい状態にもっていくための努力は勿論大切なことであるが，これには限界がある。より重要なことは，与えられた条件の中で最大の成果を上げるための条件整備である。学校の経営者としての校長の力量が問われる所以がここにある。

一方，学校週５日制が平成４年の９月から導入され，各学校で具体的な対応が求められることとなった。学校週５日制が導入されることになった理由は，純粋に教育的必要性からのものではなかったにしろ教育にたずさわるものとしては，児童生徒の望ましい人間形成にプラスになる方向で検討し指導にどのように生かしていけばよいのか，その工夫が求められている。

この研究報告は，これらをどう受け止め，学校経営の改善をどのように進めたらよいか，その方向を検討したものである。

まだまだ十分意を尽くし得ない点も多いが，御一読いただき，御指導，御批判くださいますようお願い申し上げます。

おわりに，ご多忙の中にもかかわらず貴重な実践例を提供していただいた研究協力員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成６年３月

新潟県立教育センター所長
北　村　市　郎